



四 建 第 376号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

四国中央市長

井原 功



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（提出）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました、今後の道路行政についての意見・提案について意見を別紙のとおり提出いたします。

近年、地域格差が広がっている上に、地方で道路整備の採算性が問題視される中、道路整備の在り方自体が問われています。地方ではその生活や経済活動の大半が道路交通に頼らざるを得ない状況であり、真に地方の活性化という観点からも道路整備は必要不可欠なものであります。もし道路整備が遅れることになれば、人口減少が加速し、街の疲弊は避けられません。

道路整備予算について、総額いくらという議論ではなく、「市民1人当たり」や「自動車所有台数」といった各地域に対する具体的数字を明確にする事で、国民の道路整備への理解が少しでも向上するのではないのでしょうか。

また、あくまで受益者負担という制度本来の趣旨に基づき、地方の実情に沿った予算の重点配分がなされる事を望んでいます。

○現状

・市内の国道11号では四国の国道の中でも一番(7060 台/日)の大型車通行量であり、慢性的な渋滞に悩まされている。

・重要港湾「三島・川之江港」の整備が進んでいるが、現状の国道11号では交差点部が狭く、大型トレーラの通行が困難であり、港湾整備が進んでも十分に活用できない事が懸念される。

○課題

国道11号川之江三島バイパスの早急な整備が不可欠である。特に国道192号から東について、国道11号に接続しないとバイパス整備の効果が十分に発揮されていないため、地元住民の早期完成の要望は年々高まっている状況であり、また、都市計画決定から30年以上が経過していることもあり、完成年度スケジュール管理を明確にしないと、住民の理解が得られない。

・現在、一部暫定供用中の三島・川之江港が十分に活用されておらず、港番前交差点の早期改良が望まれる。今後スムーズに港湾利用が出来るよう、道路・港湾がそれぞれ連携をして整備を進める必要がある。

製紙業を中心とする高い産業集積は、全国でも屈指の「紙どころ」としての地位を築いています。今後は住工混在の解消による住環境や操業環境の改善など、構造的な体質強化による「ものづくり」の基本を確かなものとする道路交通網の整備や、港湾施設の充実を推進します。

また、本市は、四国他県の県都へのアクセスが概ね1時間であり、2つの高速道路のジャンクション、重要港湾が存在する交通の要衝であります。また、美しい海岸線を有するとともに、緑豊かな山々を背後に抱えています。市民の保養や観光客のレジャー・レクリエーションなど、余暇活動に最適の地域条件を有しているといえます。こうした地域条件を生かすべく、広域的な交通基盤整備、定住基盤の充実を図る事により、ゆとりある人生を志向する人々に対応した地域づくりを目指しています。

安全・安心の観点では、本市は災害時の「緊急輸送道路」が交差する重要な地域でもあり、災害に強い道路網の整備を推進しています。

今後の道路行政についての意見・提案

様式

道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

愛媛県 四国中央市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・重要港湾「三島・川之江港」機能充実	国道11号川之江三島バイパス整備 港交番前交差点の交差点改良	高速道路へのアクセス向上による物流機能の向上	
・総合的な交通安全対策	豊岡・寒川地区歩道整備 国道11号川之江三島バイパス整備	通学児童の安全確保 お遍路さんが安心して通行可能 バイパスと平行する県道の事故減 (H17までの3年間で30%減)	
・中山間地の活性化	国道319号改良	幅員の確保 レジャー施設の観光客増加 (新宮地区への観光客が大幅増)	
・地域医療の充実	国道11号川之江三島バイパス整備	2次・3次医療施設への搬送時間の短縮による救命率の向上	